

江戸時代から伝わる ● 三原だるま



タコ博士、JR三原駅前の「三原だるま工房」に神明市で売っていた、少し変わった姿のだるまが並んでいました。



それはいくらでも描かれていて、頭が細長いこと、豆絞りの鉢巻きをしていること、願いが成る



▲三原だるま工房 (港町一丁目)

三原だるま

ようにと鈴や小石などの鳴り物が入っておることじゃ。そして底に重りがついていて、傾いたり倒れても、すぐに起き上がるんじゃよ。三原だるま工房では、だるまを一つ一つ手作りしているんじゃ。



▲土台作りから絵付けまで丁寧な作業が続きます



手作りなんです、作るのに時間がかかりそう。三原だるまは型に厚紙を貼り付ける土台作りか



ら手作業じゃから、大量には作れないんじゃ。



誰が作っているのですか？



戦後に途絶えていた技術を、平成元年に久保等さんが復活させたんじゃ。久保さんは3年前に亡くなるまで、たくさん作品を残したんじゃよ。タコや七福神、広島東洋カープのだるまもあるんじゃ。現在は、工房や佐木島で技術を受け継いで作られているんじゃよ。



いろいろあるんですね、私も作ってみたいです。



工房では、制作体験や面相描き体験ができるんじゃ。自分だけの三原だるま



▲さまざまなデザインや形があるのも三原だるまの特徴の一つ



貴重な体験ですね。お兄ちゃんと一緒に行ってみます。どんな表情にしようかな。

が作れるから人気なんじゃよ。(関連23ページ)